

[別紙①]

保健体育授業生徒の感想

- 最初は不安だったけど、どんどん知るにつれて普段の学校生活では感染することはないと分かって安心したので、正しい知識は大切だなと思いました。
- 人権ハピネスで学んだハンセン病と同じだなと思いました。今回の授業でももちろん感染症も怖いけど、同じくらい怖いのは人間だなと思いました。
- 免疫力は病原体から体を守ってくれても、差別や偏見からは自分たちが意識していかなければ守れないというのが、改めて日常生活の大切さを引き立てたなとも思います。
- 1980年代ではエイズが原因の差別があり、その時代の人たちにメッセージを伝えるときには、今までの道徳で学んだ考え方を十分に使うことができました。予備知識がない状態での授業だったので、新しい知識を正しく知ることができました。
- エイズは感染症の1つで免疫力を低下させたり様々な病気にかかりやすくなったりしてしまうことが分かりました。しかし予防するための方法として、不特定多数の人と性交渉をしないことやコンドームを正しく使用すること、正しい知識を知るなどがあり、前回の梅毒などの性感染症の予防と共通しているなと感じました。
- 正しい知識を知っていても差別や偏見は起こるので、それをどう生かしていくかが何よりも大切だと思った。性教育は将来の自分に必要だし、教えてもらう場もなかなかないから、一歩引くんじゃなくて前向きに取り組んでいきたい。
- 死への確率が減ってきて、医療技術が発達してきても、エイズに感染している人はどこかで差別を受けているかもしれない、差別によってその人の人生（人権）を奪われていることも知っておくことが大切だと思いました。
- 当時は情報源が少なく、不安や恐怖から差別や偏見をもってしまったこと分かりました。これはコロナウイルスの時と同じだなと思いました。始めの頃は謎が多く、感染してしまった人への誹謗中傷とかがあったと思います。情報が少ないと不安になってしまうけど、だからといって差別もしていいわけではないです。ふだんから学べる、うわさに流されないこと、人権意識をこれからも磨いていきたいです。
- 今日の授業で、やはり知ることが大切なんだなと実感させられた。昔の人はエイズについてあまり知らず、それゆえに差別を起こしてしまい、感染者を傷つけてしまうということがあった。
- 初め『エイズに感染したら死ぬ』と聞いて怖さがありました。だけど感染する主な原因としては性的接触だから、日常生活を送っていても大丈夫という正しい知識を知ることで怖さが軽減しました。そこで正しい知識を学べなかったら差別・偏見につながってしまうので、自分を守るために免疫力も大切だけど、相手を守るために人権意識をもつことが大切というのに納得しました。
- エイズというだけで差別や偏見を受けた人もいたということを聞いてコロナの時と近いものがあったのではないかなと思いました。1980年代も今も変わらないといけないものが変わっていない所がありました。不安に思うことは悪い事ではないけど、正しい情報を知ることによって不安も軽減すると思う。そういった人権意識は普段の生活の友だちと話す時などで鍛えられると思うので改めて日々の生活の大切さが分かりました。

○1980 年代の時はかかったら死ぬし、どういう病気か分からないし、不安で怖いと思うのがよく分かった。それによって偏見や差別が起こるのはコロナの時と同じだと思いました。やっぱりそういうことは正しい知識を学び、それを行動に移していくことがなくすことにつながると改めて思いました。

授業の様子



話法を使って発表し、うなずき、反応しながら聴くという「青中スタイル」を徹底しています。

板書

